

マルコの福音書 6章 45-56節 恐れるな、ただイエスを信じなさい

今日でマルコの福音書 6章を完結します。この聖書箇所では、私たち誰もが共感できるような、人生の状況に対する反応、すなわち恐れを見ます。しかし、この恐れの状態の中にイエスは入って行かれ、それは何という歩みでしょうか！マルコの福音書 6章の 45 節からまず読み始めましょう。

45 それからすぐに、イエスは弟子たちを無理やり舟に乗り込ませ、向こう岸のベツサイダに先に行かせて、その間に、ご自分は群衆を解散させておられた。

これをエピソードの始まりであることだけで、それ以上のものではないと見るのは容易いことです。しかし、この出来事は、5000 人の男たちに女と子供を加えた全員の給食に続く出来事であることを忘れてはいけません。ヨハネの福音書の同じ出来事の終わりを見ると、なぜ弟子たちを送り出すことが急がれるのかがわかります。

ヨハネの福音書 6章 14~15節 人々はイエスがなされたしるしを見て、「まことにこの方こそ、世に来られるはずの預言者だ」と言った。15 イエスは、人々がやって来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、再びただ一人で山に退かれた。

10000 人近い人々がイエスを強引に王にしようとするさまを想像できますか。彼らはイエスがメシアであることの本質も、イエスがもたらされる救いも理解していませんでした。また今回も、人々は霊的な救い主ではなく、地上の王をイエスに見つけていたのです。そしてイエスは、弟子たちに彼の救いの本質を理解することを望まれています。

この箇所でも明らかになるように、弟子たちはまだ信仰が弱く、自分たちが従っているこの神なる人を完全に理解していませんでした。彼らは、イエスを自分たちの地上の王にするために、この群衆と同調するように簡単に操られていたかもしれません。 **それからすぐに弟子たちを無理やり舟に乗り込ませ** イエスの述べた言葉の裏には大きな力が働かされていたようです。イエスは、弟子たちが気が進まなかったかもしれませんが、すぐに、強引に舟に乗せたようです。

霊的成長はプロセスです。私たちはキリストを救い主として、信頼し最低 2 つのものを受け入れます。一つめは私たちは創造主に対して罪を犯した罪人であること、そして二つ目はその罪から私たちが救うことができるのはイエス様だけであることです。しかし、イエス・キリストを通して神を本当に親密に知る過程は、生涯続くものです。弟子たちもまだ完全に理解する準備ができていませんでした、イエスは彼らの弱さを誘惑の源から遠ざけ、彼らを守られました。

彼らは理解できていませんでしたし、おそらくその直後には主のご計画をさらに理解できなかったことでしょう。そして、私たちも常に理解できるわけではないです。なぜ神は私たちの計画を変更され、私たちの行く手を阻み、私たちが陸に留まりたい思うときに無理矢理水の中に入らせるのでしょうか？それは、神がどのようなお方であるかをもっと学び、神から引き離されないようにするためです。そして弟子たちは、神がどのようなお方なのか、この後すぐにもっと知ることになります。

46 – 52 節を見てください。 **46 そして彼らに別れを告げると、祈るために山に向かわれた。**...ここでちょっと立ち止まってみましょう。マルコ書には、イエスがひとりで祈りに出かける場面が 3 回あります。どの祈りも同じパターンです。夜、孤独な場所で、弟子たち抜きで、弟子たちがイエスの使命を理解できない中での祈りでした。どの場面でも、イエスは危機や重大な決断に直面し、この場合はローマを倒す王ではなく、しもべメシアとしての召命を祈りによって再確認されています。ですから、イエスが祈りに一人で行かれるたびに、何か重要なことが起こっているの見ることになります。47 節の続きがまさにそれです。

47 夕方になったとき、舟は湖の真ん中にあり、イエスだけが陸地におられた。48 イエスは、弟子たちが向かい風のために漕ぎあぐねているのを見て、夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。49 しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。50 みなイエスを見ておびえてしまったのである。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない」と言われた。51 そして、彼らのいる舟に乗り込まれると、風はやんだ。弟子たちは心の中で非常に驚いた。52 彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたからである。

イエスは、弟子たちが自分を地上の王とみなす誤った見方に振り回されることを望まれず、弟子たちを舟で送り出されました。イエスには弟子たちを向こう岸に行かせるより重要な理由がありました。それは、イエスは弟子たちに神としての御自身の本質を理解することを望まれたからです。この出来事には弟子たちがイエスの神性、あるいは神そのものであることを示した2つの方法があります。福音記者マルコがイエスが神であることへの言及が明確になるようにこの箇所挿入した3つ目の方法があります。まず、超自然的な絶対であり得ない、見逃すことのできない最も顕著な点は、イエスが水の上を歩かれたことです！

過去2世紀にわたり、リベラル派の学者たちは、福音書記者の記述に反論しうる代替案を考え出そうとしてきました。目の錯覚で実際には浜辺にいたのか、浅瀬だったのか、あるいはこの出来事について書いている弟子たちが知りえないような他の説明でした。しかし、原文の実際の表現は、そのような説明の余地を与えません。ギリシャ語の前置詞は、「上に」「の上に」という意味しか持たないので、イエスが神だけができる方法で水の上を歩いたという以外のシナリオを作ることはできません。また、イエスの多くの行為に共通することですが、旧約聖書の神の記述と比較すると、イエスの行為は神としての性質をより強く現わしています。水の上を歩くと言われたのは神だけです。これは数ある例の中のただの2つです。

詩篇 77 篇 19 節 **あなたの道は海の中。その通り道は大水の中。あなたの足跡を見た者はいませんでした。**

イザヤ書 43 章 16 節 **16 海の中に道を、激しく流れる水の中に通り道を設け、17 戦車と馬、強力な軍勢を引き出した主はこう言われる。**

つまり、イエスが水の上を歩いたという事実そのものが、イエスの神性、そして神御自身であることを改めて証明したのです。しかし、イエスの神性を示すこの出来事の第二の側面に注目してください。イエスは御自身を誰であるかを証明することによって、本質的に神の御名を名乗られたのです。マルコ書で初めて、イエスが弟子たちに英語訳で言われた非常に重要な言葉があります。

しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない…” 49 節で、英語訳ではより分かりやすくスムーズにするために、**わたしだ**と訳されています。ギリシャ語訳では、**わたしはある**、神の御名である名称が用いられています。それは、出エジプト記でのモーセのまえでの神の顕現で見られます。**出エジプト記 3 章 14 節 神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」**また仰せられた。**「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところに遣わされた、と。」**

他の福音書記者がこの言葉をはるかに頻繁に使うのとは違って、マルコはこの言葉を3回しか使っていません。イエスは、神だけが歩まれるところを歩まれるだけでなく、神の御名を御自身が名乗られるのです。これがこの聖書箇所を中心点であり、私たちは後でこの主要点に戻ります。そして、この箇所には、キリストの神性に関するややあいまいですが意図的なマルコによる第三の言及があります。48 節の後半に注目してください。48 節 **夜明けが近づいたころ、湖の上を歩いて彼らのところへ行かれた。そばを通り過ぎるおつもりであった。**4 回目の夜回りは、ローマ時代の夜警制度に基づくもので、ユダヤ人の3回夜警制度とは異なっていました。つまり、夜中の3時から6時の間に行われたものです。しかし、私たちがこの箇所ですら本当に注目すべきなのは、次の言葉です。**そばを通り過ぎるおつもりであった…**これは、表面的には意味をなさない、かなり信じがたい発言です。イエスが無理やり弟子たちを乗り込ませたために、彼らが激しい海と風と戦っているその船に、イエスは行くつもりはなかったのです！イエスは弟子たちのそばを通り過ぎ、向こう岸で会うつもりだったのです！

あるいは、この言葉にはもっと別の意味があるのかもしれませんが。旧約聖書では、この簡潔な言い回しは、歴史を通して神が特定の人々にどのように御自身を現されたかを説明するために用いられています。出エジプト記 33 章は、神がイスラエルをエジプトから脱出させるために用いた指導者モーセと神との会話です。

出エジプト記 33 章 18~23 節 **18 モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」 19 主は言われた。「わたし自身、わたしのあらゆる良きものをあなたの前に通らせ、主の名でああなたの前に宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者を**

あわれむ。」22節に飛びます。22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく。23 わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない。」そしてホレブ山で、神は「通りすがりに」エリヤに御自身を現されました。

列王記 第一 19章 11節の最初の部分です。11 主は言われた。「外に出て、山の上で主の前に立て。」するとそのとき、主が通り過ぎた。主の前で激しい大風が山々を裂き、岩々を砕いた。しかし、風の中に主はおられなかった。風後に地震が起こったが、地震の中にも主はおられなかった。しかし、この主が通り過ぎるという考えと、イエスが水の上を歩かれることとの最も重要なつながりは、ヨブ記9章に見られます。ヨブ記は、自分がどれほど神を必要としているか、そしてこの世で持っているものはすべて神からのものであり、神のみによるものであることを本当に知ることになった人の記述です。神は聖書の他のどこにも見られないような方法による御自身の顕現です。ヨブはヨブ記9章8-11節で神について語っています。

ヨブ記9章8~11節 8 神はただひとりで天を延べ広げ、海の大波を踏みつけられる。9 神は牡牛座、オリオン座、すばる、それに南の天の間を造られた。10 大いなることをなさって測り知れず、その奇しみわざは数えきれない。11 神がそばを通り過ぎても、私には見えない。進んで行っても、気づかない。

旧約聖書のギリシャ語訳におけるこの箇所の変換が、マルコによる福音書48節の神が通り過ぎるという表現とほぼ同じであるという点でこの箇所は重要です。ヨブ記9章のこの箇所は、神の偉大さと栄光と、人間の驚くべき弱さとはかなさとの間の驚くべき隔たりについての、この箇所全体の要約です。ですから、聖霊なる神は、福音書記者マルコを通して、私たちがこのような明確なつながりを描き、イエスにおいて次のように理解することを望んでおられます。コロサイの信徒への手紙2章9節にあるように。コロサイ人への手紙2章9節9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。この着想については、この箇所の要点であるため、最後にまた述べることにしますが、最後の4節を今日のテキストに含めたので、この聖書箇所と結びつけたいと思います。それでは、残りの聖句を読みましょう。

53 それから、彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着き、舟をつないだ。54 彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついた。55 そしてその地方の中を走り回り、どこでもイエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運び始めた。56 村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、人々は病人たちを広場に寝かせ、せめて、衣の房にでもさわらせてやってくださいと懇願した。そして、さわった人たちはみな癒やされた。

先の群衆は奇跡を求め、地上の王を求めていたのを覚えていますか。この群衆も同じでした。しかしイエスは、群衆が弟子となることを望んでおられます。群衆は奇跡を見、肉体的な癒しを経験した人達さえいました。しかし群衆は、イエスが弟子たちに理解することを望まれた霊的な救いを全くと言っていいほど理解できませんでした。彼らはイエスの神である本質を理解できなかったため、イエスの救いの本質を理解することができませんでした。真の弟子たちはその両方を経験しました。それが彼らの弟子たる所以です。それこそが、イエスが今日、あなたに望んでおられること、イエスの信者、イエスの弟子であることです。イエスが十字架の死によって贖ってくださった罪からの救いの必要性を認識することによって、あなたが自分の罪を悔い改め、イエスとその罪のための犠牲を唯一の救いの源として受け入れるとき、あなたはイエスの弟子になるのです。

ここで、このテキストの主要点に戻ります。イエスが神御自身であることを宣言し、恐怖におののく弟子たちにこう言ったところです。しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない この箇所のポイントは、イエスはその神性、つまり神としてのアイデンティティーを用いて、弟子たちの恐れに答えていることです。48節の終わりから、この箇所の核心的な側面を見ることが出来ます。

そばを通り過ぎるおつもりであった。49 しかし、イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは、幽霊だと思い、叫び声をあげた。50 みなイエスを見ておびえてしまったのであ

る。そこで、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたした。恐れることはない」と言われた。

彼らの信仰心が試されたのは、風の強い海だけでなく、超自然的なものに対する恐怖心もです。怪談が私たちを怖がらせるのには理由があります。怪談は、私たちの誰も完全には把握できない超自然的な問題を扱っているからです。私たちは、それがフィクションでありエンターテインメントであることを知りながら、その恐怖感を楽しむことができます。ホラー漫画や本や映画の業界全体が、表面的に私たちに恐怖を作り出すことを目的としています。しかし、弟子たちは心底怖がっていました。

留意してほしいことは、彼らの恐れは罪ではなかったことです。時として私たちは、自分が抱く本物の恐れはそれ自体が罪であると信じてしまいます。私たちは、聖書の教えに反してすべての恐れは罪であると誤解し、信じています。しかし、イエスは彼らの恐れを非難しておらず、それどころか、自分が神であることを力強く示すことによって、彼らの恐れに正面から立ち向かわれたのでした。私たちにとても重要です。私たちが恐れるとき、弟子たちと同じように、その状況を理解していなかったり、その状況が圧倒的で、私たちよりもはるかに大きく感じられたりするからです。

私たちのために死んで救ってくださった救い主は、ヨブ記9章8節にあるように、私たちをその掌中に収めておられる神でもあることを、私たちは思い起こす必要があります。

神はただひとりで天を延べ広げ、海の大波を踏みつけられる。

キリストに対する私たちの信仰は実際度々弱くなってしまっているので、思い出させられる必要があります。考えてみてください。弟子たちは、イエスが5つのパンと2匹の魚で何千人もの人を養うのを見たばかりだというのに、マルコによる福音書6章の51節の最後にこう書かれています。

弟子たちは心の中で非常に驚いた。52 彼らはパンのことを理解せず、その心が頑なになっていたのである。

弟子たちは、信仰が強まるどころか、ある意味で頑なになってしまったのには驚きました。彼らは明らかにイエスをメシアとして信じていましたが、あらゆる証拠を前にして、彼らの信仰は多くの点で私たちと同じように弱かったのです。私たちの信仰を高める唯一の方法は、イエスがどのようなお方であり、私たちの救いがどれほど偉大なものであるかを、より大局的に理解することです。福音中心の人生で学んだように神がどのようなお方であり、十字架上で私たちを救ってくださった御子なる神がどのようなお方であるかについての私たちのビジョンが大きくなればなるほど、御子に対する私たちの信仰は高まるのです。

ティム・ケラーはいくつかの多様な表現で、**信仰の質ではなく、信仰の対象が私を支えている**とはっきりと述べています。

弟子たちの信仰の対象、そして私たちの信仰の対象はイエス様です。イエスは、その死によってあなたを永遠に救うことができるほど強いだけでなく、燃える柴の中でモーセに現れ、水の上を歩く弟子たちに現れた偉大なる**私はある**であり、あなたと私の代わりにいつでも行動なさろうと、今まさに私たちのそばを通り過ぎようとしています。

私たちのために行動してくださるということは、私たちに襲いかかり、私たちに恐れをもたらしている肉体的、感情的、あるいは人間関係上の風を直ちに止めてくださるとは限りません。しかし、ヘブル人への手紙12章2節に、私たちの信仰の創始者であり、私たちの信仰を与えられた方であると同時に、私たちの信仰の完成者であり、私たちの弱い信仰を永遠に向けて完全な信仰へと絶えず成長させてくださる方であると記されているイエスに、私たちが目を向けることができるということなのです。イエスを仰ぐとき、私たちの恐れは、私たちの神であり**しっかりしなさい。わたした。恐れることはない**と言ってくださる救い主であるイエスの栄光に照らされた信仰へと変えられます。祈りましょう。

Mark 6:45-56 Jesus responds to fear

Today we are finishing up the 6th chapter of Mark. In this passage, we see a response to life's circumstances that all of us can relate to – fear. But into this circumstance of fear walks Jesus and what a walk it is! Let's begin reading at verse 45 of Mark 6.

45 Immediately he made his disciples get into the boat and go before him to the other side, to Bethsaida, while he dismissed the crowd. It would be easy to just look at this as the beginning of the episode and nothing more, and it is indeed the beginning of the event. But remember that this event follows the feeding of the 5000 men plus women and children. When we look at the end of that same event in the Gospel of John, we see why the urgency to send the disciples away. **John 6:14-15 says, When the people saw the sign that he had done, they said, "This is indeed the Prophet who is to come into the world!"** **15 Perceiving then that they were about to come and take him by force to make him king, Jesus withdrew again to the mountain by himself.** Can you imagine nearly 10000 people trying forcefully make Jesus king? They did not understand the nature of his being the Messiah and the type of salvation that he was offering. Once again, the people saw an earthly king, rather than a spiritual Savior. And **Jesus wants his disciples to understand the nature of his salvation.** As the events in this passage will make clear, the disciples were still in many ways weak in their faith and themselves did not understand completely this God-man that they were following. They could have been easily manipulated to go along with this crowd to make Jesus their earthly king. There is a lot of force behind the statement, **immediately, he MADE**...them...get into the boat. It seems like Jesus quickly and forcefully got them into a boat to leave when they may have been reluctant. Spiritual growth is a process. We must accept Christ as our Savior recognizing at least two things, that we are sinners who have sinned against our Creator, and two, that Jesus is the only one who can save us from that sin. But the process of really knowing God intimately through Jesus Christ is a lifelong process. Just as his disciples were still not fully ready to understand, Jesus protected them by pushing them away from a source of temptation for them in their weakness. They did not understand, and probably understood his plan even less soon after; and neither will we every time. Why does God change our plans, put obstacles in our way and force us into the water when we want to stay on the land? It is so we learn more about who he is, and are not drawn away from him. And the disciples will definitely learn more of who he is very soon.

Look at verses 46 – 52. **46 And after he had taken leave of them, he went up on the mountain to pray.** ...let's stop here for just a minute. There are three times where Jesus goes away by himself to pray in the book of Mark. Each one of these prayers has the same pattern, at night, in a lonely place, without the disciples, and with the disciples failing to understand his mission. In each situation, Jesus faces a crisis or significant decision, and in this case he reaffirms by prayer his calling as a servant Messiah rather than a king to defeat Rome. So, we should see something significant happening each time these prayers occur. That is exactly what we see as verse 47 continues. **47 And when evening came, the boat was out on the sea, and he was alone on the land. 48 And he saw that they were making headway painfully, for the wind was against them. And about the fourth watch of the night he came to them, walking on the sea. He meant to pass by then, 49 but when they saw him walking on the sea they thought it was a ghost, and cried out, 50 for they all saw him and were terrified. But immediately he spoke to them and said, "Take heart; it is I. Do not be afraid."** **51 And he got into the boat with them, and the wind ceased. And they were utterly astounded, 52 for they did not**

understand about the loaves, but their hearts were hardened. Jesus did not want his disciples swept up in the false view of him as an earthly king, so he sent them off in a boat. But Jesus had a greater purpose in that trip across the lake, because **Jesus wants his disciples to understand his nature as God.** There are two ways in this event that the disciples were shown the nature of Jesus to be Deity or God himself, and there is a third that the writer Mark inserts into the passage so that it is a clear reference to God. *The first and most glaring point that cannot be missed that is absolutely not possible outside of the supernatural is that Jesus walked on water!* Liberal scholars for the past two centuries have tried to come up with alternatives that could refute what the Gospel writers say happened. Whether it was an optical illusion and he was actually on the beach, or it was shallow water or some other explanation that the disciples writing about the event could not have known. But the actual wording of the original text does not allow for any of those explanations. The preposition in Greek only means on, or upon, or on top of, so you cannot create any other scenario other than Jesus walked on the water in a way only God can. And as is common with many acts by Jesus, his actions demonstrate his nature as God even more strongly when you compare them to the descriptions of God in the Old Testament. Only God was ever said to walk on water. Just two examples among many... [Psalm 77:19](#) says, *Your way was through the sea, your path through the great waters; yet your footprints were unseen.* And [Isaiah 43:16](#) says, *Thus says the Lord, who makes a way in the sea, a path in the mighty waters...*

So the very fact that Jesus walked on water proved once again his divine nature and identity as God himself. But then notice a second aspect of this event that shows his Deity. *By his identification of himself, he essentially takes God's name for himself.* For the first time in the book of Mark, we have a very significant statement that Jesus makes as he says to the disciples in English, **"Take heart; it is I. Do not be afraid..."** in verse 49. While the English is smoothed there to read "It is I.", the Greek reads "Ego Eimi" or I Am. This is the personal name for God. It is how God reveals himself to Moses in [Exodus 3:14](#) where we read, *"God said to Moses, I AM WHO I AM." And he said, "Say this to the people of Israel: I AM has sent me to you."* Unlike the other Gospel writers who use it far more often, Mark only uses this term 3 times, which means it is significant when he does give us Jesus's very words where he says this of himself. Jesus not only walks where only God walks, but also takes His very name for himself. This is really the central point of this passage, and we will return back to this point later.

But there is a third reference to the Deity of Christ in this passage that is more obscure but seems to be intentional by Mark. Notice the second half of verse 48. The Bible says, **And about the fourth watch of the night he came to them, walking on the sea. He meant to pass by then...** The fourth watch of the night was based on the Roman system of night watches, which was different than the 3 watch system of the Jews. It means this happened sometime between 3AM and 6AM in the morning. But what we should really take notice of here in this passage is that phrase, **"He meant to pass by..."** This is a rather incredible statement that doesn't make sense on the surface of it. Jesus wasn't planning on going to the ship where his disciples were fighting the heavy seas and winds all because Jesus forced them onto this boat! He was intending to walk right on by them and just meet them on the other side! Or there could be more to this phrase. In the Old Testament, this simple phrase is used to describe how God revealed himself to specific people throughout history. Exodus 33 is a conversation between God and the leader of the Israelites God used to bring the nation of Israel out of Egypt named Moses. In

Exodus 33: 18-23 says 18 Moses said, "Please show me your glory." 19 And he [God] said, "I will make all my goodness pass before you and will proclaim before you my name 'The Lord.' Then dropping down to verse 22... 22 and while my glory passes by I will put you in a cleft of the rock, and I will cover you with my hand until I have passed by. 23 Then I will take away my hand, and you shall see my back, but my face shall not be seen." Then at Mount Horeb God revealed himself to Elijah in "passing by." The first part of 1Kings 19:11 says, 11 And he said, "Go out and stand on the mount before the Lord." And behold, the Lord passed by... But the most important connection between this idea of the Lord passing by and Jesus walking on water is seen in Job 9. The book of Job is the account of a man who really comes to know how much he needs God and how everything he has in this life is from God and God alone. God reveals himself in ways that are not seen anywhere else in Scripture. Job when speaking about God says in Job 9:8-11, who alone stretched out the heavens and trampled the waves of the sea; 9 who made the Bear and Orion, the Pleiades and the chambers of the south; 10 who does great things beyond searching out, and marvelous things beyond number. 11 Behold, he passes by me, and I see him not; he moves on, but I do not perceive him. This passage is significant in that the wording of this passage in the Greek translation of the Old Testament is nearly identical to the wording in the book of Mark of verse 48 about God passing by. These verses from Job 9 are a summary of the entire passage that is all about the incredible separation between the greatness and glory of God and the incredible weakness and frailty of humanity. So, God the Holy Spirit, speaking through the gospel writer Mark here wants us to draw these clear connections and understand that in Jesus ... the whole fullness of deity dwells bodily, as Colossians 2:9, tells us.

We will come back to this idea as we close because it is the point of the passage, but I included the final 4 verses of this passage with our text today and I want to tie them in with this passage. So let's read the rest of this passage, verses 53-56 53 **When they had crossed over, they came to land at Gennesaret and moored to the shore. 54 And when they got out of the boat, the people immediately recognized him 55 and ran about the whole region and began to bring the sick people on their beds to wherever they heard he was. 56 And wherever he came, in villages, cities, or countryside, they laid the sick in the marketplaces and implored him that they might touch even the fringe of his garment. And as many as touched it were made well.** Remember, the crowds wanted the miracles, the crowds wanted an earthly king. And these crowds were no different. But **Jesus wants the crowds to become disciples.** The crowds saw the miracles, some even experienced physical healing. But the crowds mostly missed really understanding the spiritual salvation he offered that Jesus wanted his disciples to see so much that he pushed them into a boat and even into a storm. They failed to see the nature of his salvation, because they failed to understand his nature as God. The real disciples experienced both. That is what made them his disciples. That is what Jesus wants you to be today, his follower, his disciple. By recognizing your need of the salvation he offers from sin that he paid for by his death on the cross. When you repent of your sin and accept Jesus and his sacrifice for your sin as the only source of salvation you become his disciple.

And that is where I want to return to the primary point of this text. The point where Jesus declaring his identity as God himself, says to the terrified disciples, **Take heart; it is I. Do not be afraid**...Take heart I AM is with you...God is here! Do not be afraid! The point of this passage is that **Jesus uses his Deity, his identification as God, to answer**

the fear of his disciples. Starting at the end of verse 48, we see this core aspect of this passage. He meant to pass by then, 49 but when they saw him walking on the sea they thought it was a ghost, and cried out, 50 for they all saw him and were terrified. But immediately he spoke to them and said, “Take heart; it is I. Do not be afraid.” Their faith was not only tested by the windy seas, but also by their fear of the supernatural. There is a reason that ghost stories make us scare us. They deal with supernatural issues that none of us fully grasp. We sometimes enjoy that scared feeling knowing that it is fiction and entertainment. There is an entire industry of horror manga and books and movies that is for the purpose of creating fear in us in a superficial way. But the disciples were genuinely terrified. And take note of this…their fear was not sin. Sometimes we want to believe that genuine fear that we have is sinful in itself. We mistakenly and unbiblically believe that all fear is sin. But Jesus does not condemn their fear. Instead, he met their fear head on by demonstrating in a powerful way that he was God. This is important, because, when we fear, just like the disciples, it is because we don’t understand the circumstances or they feel overwhelming and so much bigger than us. We need to be reminded that the Savior who saved us by dying for us is the also the God who holds us in the palm of his hands and as [Job 9:8](#) says, [alone stretched out the heavens and trampled the waves of the sea](#). The fact is that we need to be constantly reminded of this, because our faith in Christ is weak so many times. Think about the fact that the disciples had just seen Jesus feed thousands with 5 loaves of bread and 2 fish and yet we read this at the end of verse 51 of Mark 6. [And they were utterly astounded, 52 for they did not understand about the loaves, but their hearts were hardened](#). That is astounding to me that rather than increased faith, the disciples were hardened in some way. They clearly believed in Jesus as their Messiah, but in the face of all the evidence, their faith in many ways was as weak as ours. The only way to increase our faith is to get a bigger picture of who Jesus is, and how great our salvation is. This is once again the idea behind the Gospel Centered Life, the greater our vision of who God is and who God the Son is who saved us on the cross, the more our faith in him grows. [Tim Keller made the statement in a few different variations that “It is not the quality of my faith, but the object of my faith that holds me up.”](#) The object of the disciples faith and our faith is Jesus. He is not only strong enough to eternally save you by his death, he is the great I AM who appeared to Moses in a burning bush and appeared to the disciples walking on water and is there for you and me right now passing by, ready to act on our behalf. Acting on our behalf may not always mean that the physical or emotional, or relational “winds” that are coming against us and causing us fear are immediately stopped. But it does mean that we can look to Jesus, who [Hebrews 12:2](#) describes as both the [founder of our faith](#), the one who created our faith, and the [perfecter of our faith](#), the one who will continually grow our weak faith to perfect faith in eternity. When we look to Jesus our fear turns to faith in light of the glory of our God and Savior who says, [Take heart; it is I. Do not be afraid](#). Let’s pray.